

エコアクション21

環境経営レポート

第17版



対象期間/2021年12月～2022年11月

2023年6月 発行

ISHIZAKA GROUP

有価物回収協業組合 石坂グループ



目次

1. 環境経営方針	3
2. 組織の概要	
2. 1 事業所名及び代表者氏名	4
2. 2 所在地	4
2. 3 環境管理責任者	4
2. 4 事業内容	4
2. 5 事業年度	4
2. 6 事業規模	4
2. 7 産業廃棄物関連許可事項	5
2. 8 会社沿革	6
2. 9 運搬車両の種類と台数	7
2. 10 産業廃棄物処理施設の概要	7.8
2. 11 処分場処理方式、処理工程図	9.10.11
3. 認証・登録対象範囲	12
4. EA21 組織図	12
5. 環境経営目標	13
6. 環境経営計画	14
7. グループ全体の物質収支	15.16
8. 環境経営目標と実績	17
9. 環境関連法規等の遵守状況	18
10. 地域・社会貢献	18
11. 環境管理責任者及び代表者による全体評価と見直しの結果	19

1. 環境方針

環境方針

私たち石坂グループは、リサイクル事業及び廃棄物処理事業を通じ、業界のリーディングカンパニーとして、地域・社会の環境保全への取組みをサポートし、環境に責任の持てる企業として有益な環境活動を追及いたします。

- 1、取扱品目全般において、環境負荷の軽減、化学物質の適正管理、エネルギーの知的利用の促進、コスト削減の追及を実施し、最適な企業活動を目指します。
- 2、事業活動の定期的見直しを実施し、継続的改善・汚染の予防・環境負荷の軽減を第一に事業活動を実施いたします。
- 3、環境企業として、子供達の環境教育を積極的に実践し、施設の一般公開・情報の開示を推進いたします。
- 4、当社において、有効資源の活用・確保及びグリーン購入を推進し、最終処分廃棄物の削減、有効利用の促進につなげます。
- 5、環境関連法規及び、同意したその他の要求事項を、すべて順守し、業界のレベルアップ・モラルの向上を目指します。
- 6、この環境方針は、当組合の環境活動の指針として全従業員に周知し、関連する一般の方すべてに公開致します。



2014年 9 月 1 日

有価物回収協業組合石坂グループ

理事長 石坂孝光

2. 組織の概要

2. 1 事業所名及び代表者氏名

有価物回収協業組合 石坂グループ
代表理事 石坂 孝光

2. 2 所在地

◆本社 〒861-8031
熊本県熊本市東区戸島町2874番地
☎：096（389）5501 📠：096（389）5502

◆西部事業所 〒860-0068
熊本県熊本市西区上代7丁目28番11号
☎：096（329）2002 📠：096（329）2003

◆大津事業所 〒869-1236
熊本県菊池郡大津町杉水3746番地
☎：096（293）0561 📠：096（293）0943

2. 3 環境管理責任者

環境管理責任者 常務理事 辻 崎 英 樹
☎：096（389）5501 📠：096（389）5502

2. 4 事業の内容

- ・一般廃棄物・産業廃棄物・有価物の収集運搬業
- ・一般廃棄物・産業廃棄物・有価物の中間処理業
- ・有価資源の回収・販売
- ・指定管理施設の運営

2. 5 事業年度

6月 ～ 翌年5月

2. 6 事業規模

- ◆資本金 7,000万円
- ◆年商 678,390万円（2022年5月）
- ◆従業員数 290名（2022年6月現在）

2. 7 産業廃棄物関連許可事項

	許可・通知・届出等		許可番号	許可の年月日	有効期限
1	一般廃棄物収集・運搬業許可証	熊本市	第22R-11号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
		大津町	第6号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
		菊陽町	第530号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
		合志市	合志市指令第2号	令和5年4月1日	令和7年3月31日
		菊池市	菊池市指令第2号	令和5年4月1日	令和7年3月31日
2	産業廃棄物収集・運搬業許可証	熊本県	第04301023165号	平成28年9月1日	令和5年8月31日
		熊本市	第08101023165号		
		福岡県	第4000023165号	平成28年7月23日	令和5年7月22日
		熊本市	第08111023165号	令和5年1月15日	令和12年1月14日
		山口県	第03500023165号	令和2年11月12日	令和9年11月11日
		佐賀県	04103023165	平成26年3月29日	令和10年3月28日
		大分県	04402023165	平成30年6月19日	令和7年6月18日
		大分市	8800023165		
		大牟田市	7801023165		
		鹿児島市	8201023165号		
		鹿児島県	04609023165号	令和1年6月27日	令和8年6月26日
3	特別管理産業廃棄物収集運搬業許可証	熊本県	第04351023165号	令和4年11月10日	令和11年10月16日
		熊本市	第08161023165号	令和4年8月8日	令和11年8月7日
		福岡県	04050023165	平成29年1月23日	令和6年1月22日
		山口県	第03550023165号	令和3年11月25日	令和10年11月24日
4	一般廃棄物処分業許可証	熊本市	第2-01号	令和5年3月8日	令和7年3月7日
		大津町	第34号	令和4年4月1日	令和6年3月31日
5	産業廃棄物処分業許可証	熊本県	第04321023165号	令和5年2月14日	令和12年2月11日
		熊本市	第08121023165号	令和2年9月12日	令和9年9月11日
6	解体業許可証(使用済自動車)	熊本市	第20813100108号	令和1年7月1日	令和6年6月30日
	解体業許可証(使用済自動車)	熊本県	第20433200001号	令和1年7月1日	令和6年6月30日
	破砕業許可証(使用済自動車)	熊本市	第20816100108号	令和1年7月1日	令和6年6月30日
	使用済自動車の再資源化に関する法律(フロン回収業者登録(戸島))	熊本市	20812100108	令和4年6月19日	令和9年6月18日
	使用済自動車の再資源化に関する法律(フロン回収業者登録(戸島一西部))	熊本市	20811100108	令和4年10月18日	令和9年10月17日
	使用済自動車の再資源化に関する法律(フロン回収業者登録(大津事業所))	熊本県	20431200064	令和4年9月13日	令和9年8月2日
7	廃棄物再生事業者登録証明書	熊本県	廃対第1358号	平成23年2月28日	
8	熊本市リサイクル事業者認定証	熊本市	認定番号05-22	令和2年6月10日	令和7年6月9日
9	ISO14001登録証	JSAE	JSAE 417	令和1年9月21日	令和7年9月20日
10	冷媒回収フロン事業所認定証		430022	令和4年10月1日	令和7年9月30日
11	第1種フロン類回収事業登録通知書		430007A	令和4年2月19日	令和9年2月18日
12	解体工事業登録	熊本県	22-87号	令和2年5月19日	令和7年5月18日
13	古物商許可証	熊本県	第931280001620号	平成12年12月20日	
14	エコアクション(EA)21		0002032	令和3年11月28日	令和5年11月27日

〔情報公開ページ <http://www.ishizaka.gr.jp>〕

2. 8 会社沿革

- 1970~ 1979年（昭和54年）
熊本有価物回収事業協同組合設立
- 1980~ 1980年（昭和55年）
中小企業高度化資金対象事業として資源化工場開設
- 1987年（昭和60年）
菊池郡大津町に大津事業所開設
- 1986年（昭和61年）
「熊本有価物回収事業協同組合」から
「有価物回収協業組合石坂グループ」に組織変更。
熊本市城山上代町に西部事業所開設。
- 1990~ 1991年（平成3年）
「空きびん・空き缶選別加工事業」新資源化工場開設
- 1998年（平成10年）
「ミックス古紙選別事業」と「ペットボトル選別加工事業」
工場を建設・整備。
- 1999年（平成11年）
（業）石坂グループ大津営業所を移転し、備蓄倉庫や
廃棄物処理・リサイクル処理施設を充実
- 2000~ 2000年（平成12年）
代表理事に石坂孝光 就任。
本社社屋、古紙部門選別棟・加工棟を現在地に新築移転
- 2001年（平成13年）
環境ISO14001認証取得
- 2006年（平成18年）
第5次高度中小企業高度化資金対象事業として、本社第二工場を増設
- 2007年（平成19年）
日本容器包装リサイクル協会より、「PETボトル」リサイクル業務受託開始
- 2016年（平成28年）
環境大臣より「循環型社会形成の推進」表彰状
- 2017年（平成29年）
熊本県より災害廃棄物処理事業を幹事会社として受託し運営開始
- 2018年（平成30年）
熊本県より受託した災害廃棄物処理受託事業の終了
西日本豪雨による災害廃棄物処理復興事業に指導会社として参画
- 2019年（平成31年）
熊本市指定管理事業として、東部堆肥センター運営開始
〔情報公開ページ <http://www.ishizaka.gr.jp>〕

2. 9 運搬車両の種類と台数

(全保有台数) 138台

<内訳>

・キャブオーバ	31台	・ステーションワゴン	9台
・塵芥車	45台	・脱着装置付コンテナ専用車	13台
・高所作業車	2台	・ダンプ	12台
・コンテナ専用車	2台	・バン	12台
・散水車	1台	・箱型	11台

2. 10 産業廃棄物処理施設の概要

◆本社 (所在地：熊本県熊本市東区戸島2874番地1 外23筆)

(1) 設置の許可を受けている施設

施設の名称等	施設の種類	産業廃棄物の種類	処理能力
破砕処理工業	破砕・選別	プ・紙・木・織・ゴ 金・陶・が	32 t/日(8h)
破砕・選別工場	破砕(移動式)・選別	木	276.4 t/日(8h)
ペットボトル破砕工場	選別・破砕・洗浄	プ	17 t/日(8h)

(2) その他の施設

施設の名称等	施設の種類	産業廃棄物の種類	処理能力
金属リサイクル工場	切断	プ・木・金	68.8 t/日(8h)
	圧縮	プ・金	5.6 t/日(8h)
	剥離		3.0 t/日(8h)
	切断・分離	プ・金	2.5 t/日(8h)
廃自動車等解体工場	選別・解体	汚泥・廃酸・廃アルカリ プ・油・紙・木・織 ゴ・金・陶	30台/日(8h)
破砕処理工場	選別	汚泥・油・廃酸・廃アルカリ プ・ゴ・金・陶・紙・木 織・が	16 t/日(8h)
	破砕	プ・紙・木・織・ゴ・金 陶・が	4.1 t/日(8h)
びん・缶選別工場	選別	汚泥・油・廃酸・廃アルカリ プ・ゴ・金・陶・紙・木 織・が	48 t/日(8h)
	圧縮	金	16 t/日(8h)
	圧縮	金	5.6 t/日(8h)
	破砕・分級	陶	16 t/日(8h)
	破砕・選別	プ・金	2.0 t/日(8h)
ペットボトル等選別工場	選別	プ	4.0 t/日(8h)
	圧縮	プ	4.5 t/日(8h)
廃蛍ランプ類破砕施設	破砕	プ・金・陶	1.0 t/日(8h)
破砕・減溶施設	破砕・減溶	プ	0.96 t/日(8h)
選別・圧縮工場	選別	プ・紙・織	40 t/日(8h)
	圧縮	プ・紙・織	168 t/日(8h)
びん・ガラス破砕・選別工場	選別・破砕・洗浄	陶	200 t/日(8h)
機密古紙破砕工場	破砕	紙	9.6 t/日(16h)
選別・プレス工場	選別・圧縮	プ・紙・木・織・ゴ・金 陶	100 t/日(8h)
選別工場	選別・圧縮・梱包	汚泥・油・廃酸・廃アルカリ プ・ゴ・金・陶・紙・木 織・が	48 t/日(8h)

[情報公開ページ <http://www.ishizaka.gr.jp>]

2. 10 産業廃棄物処理施設の概要

◆本社 (所在地：熊本県熊本市東区戸島2874番地1 外23筆)

(3) 廃棄物の保管施設

施設の名称等	施設の種類	産業廃棄物の種類	保管容量
金属リサイクル工場	切断	プ・木・金	447.0m ³
	圧縮	プ・金	16.0m ³
	剥離	プ・金	37.0m ³
	切断・分離	プ・金	18.5m ³
廃自動車等解体工場	選別・解体	汚泥・廃酸・廃アルカリ プ・油・紙・木・織 ゴ・金・陶	18台
破碎処理工場	選別	汚泥・油・廃酸・廃アルカリ プ・ゴ・金・陶・紙・木 織・が	200.0m ³
	破碎	プ・紙・木・織・ゴ	
	破碎・選別	金・陶・が	
びん・缶選別工場	選別	汚泥・油・廃酸・廃アルカリ プ・ゴ・金・陶・紙・木 織・が	361.0m ³
	圧縮	金	
	破碎・分級	陶	
	破碎・選別	プ・金	
ペットボトル等選別工場	選別	プ	280.0m ³
	圧縮		
廃ランプ類破碎施設	破碎	プ・金・陶	8.0m ³
選別・圧縮工場	選別	プ・紙・織	2457.0m ³
	圧縮		447.0m ³
破碎・減溶施設	破碎・減溶	プ	3.4m ³
破碎・選別工場	破碎(移動式)・選別	木	469.7m ³
ペットボトル破碎工場	選別・破碎・洗浄	プ	627.0m ³
			226.0m ³
			627.0m ³
			784.0m ³
びん・ガラス破碎工場	選別・破碎・洗浄	陶	63.0m ³
			70.5m ³
			40.1m ³
			702.2m ³
機密古紙破碎工場	破碎	紙	35.9m ³
			10.3m ³
選別・プレス工場	選別・圧縮	プ・紙・木・織・ゴ 金・陶	536.7m ³
			206.4m ³
選別工場	選別・圧縮・梱包	汚泥・油・廃酸・廃アルカリ プ・ゴ・金・陶・紙・木 織・が	378.3m ³

◆大津事業所 (所在地：熊本県菊池郡大津町杉水字中谷3746番2ほか)

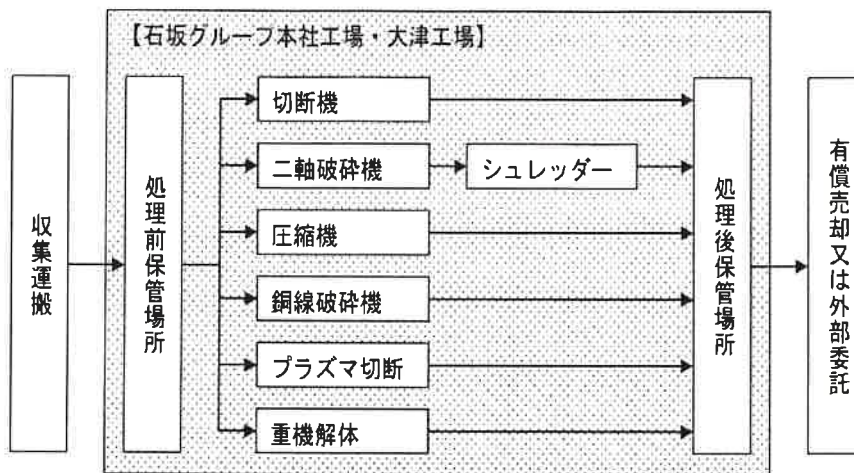
区分	処理方法	産業廃棄物の種類	処理能力	
中間 処理 業	圧縮	紙・織・金・プ	198.8 t/日(8h)	
	解体・選別	木・金・陶・プ	32 t/日(8h)	
	選別	紙・木・織・ゴ・金・陶・が・プ	78 t/日(8h)	
	破碎①	陶	1.0 t/日(8h)	
	破碎②	廃プラスチック類		4.6 t/日(8h)
		紙くず		4.3 t/日(8h)
		木くず		4.8 t/日(8h)
		繊維くず		4.3 t/日(8h)
	圧縮・固化	紙・木・織・プ	4.4 t/日(8h)	

[情報公開ページ <http://www.ishizaka.gr.jp>]

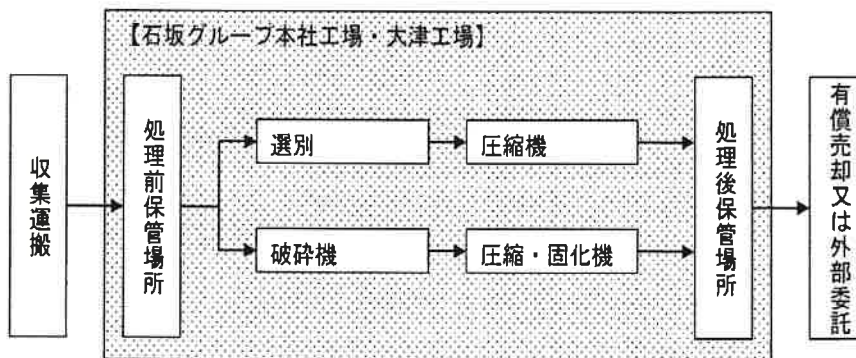
2. 11 処分場処理方式、処理工程図

有価物回収協業組合 石坂グループ 事業場内の処理工程

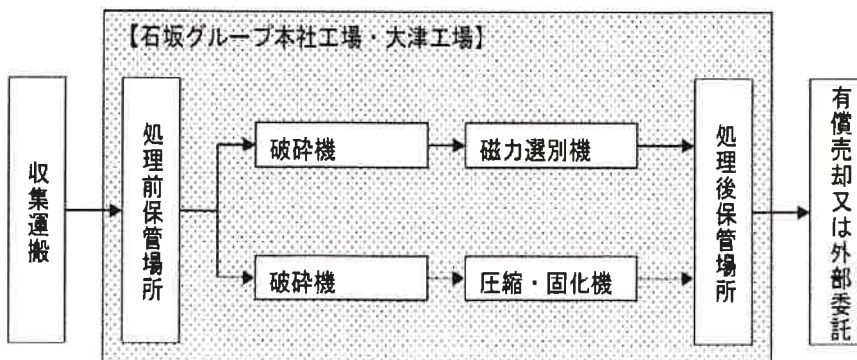
①金属くず



②紙くず



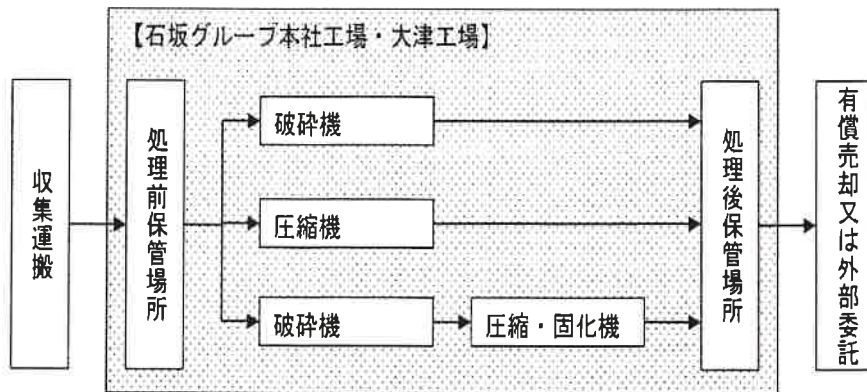
③木くず



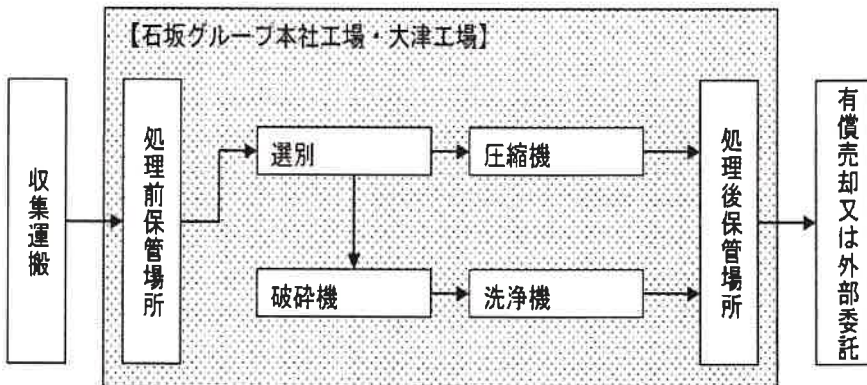
〔情報公開ページ <http://www.ishizaka.gr.jp>〕

2. 11 処分場処理方式、処理工程図

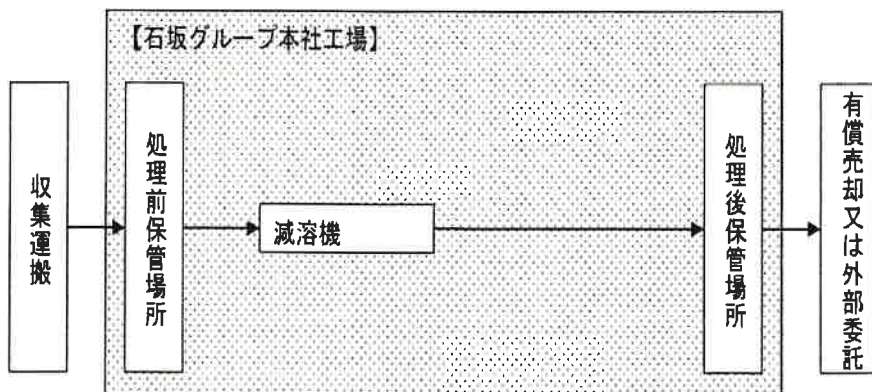
④廃プラスチック類



⑤ペットボトル（廃プラスチック類）



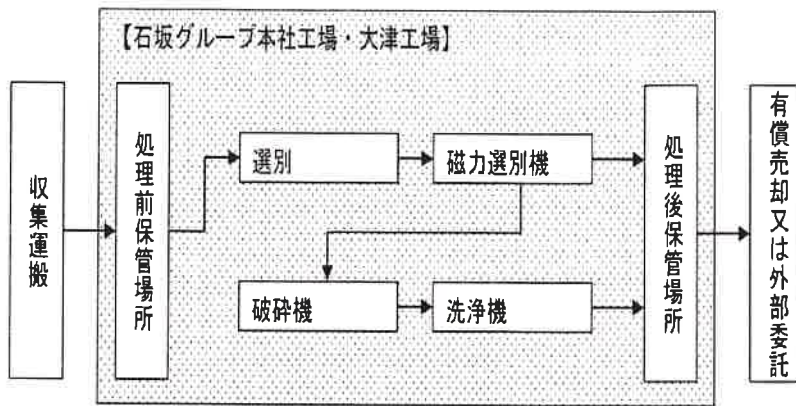
⑥発泡スチロール（廃プラスチック類）



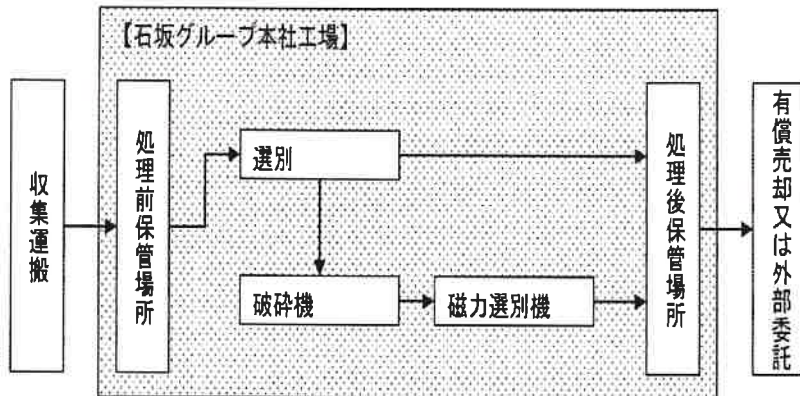
〔情報公開ページ <http://www.ishizaka.gr.jp>〕

2. 11 処分場処理方式、処理工程図

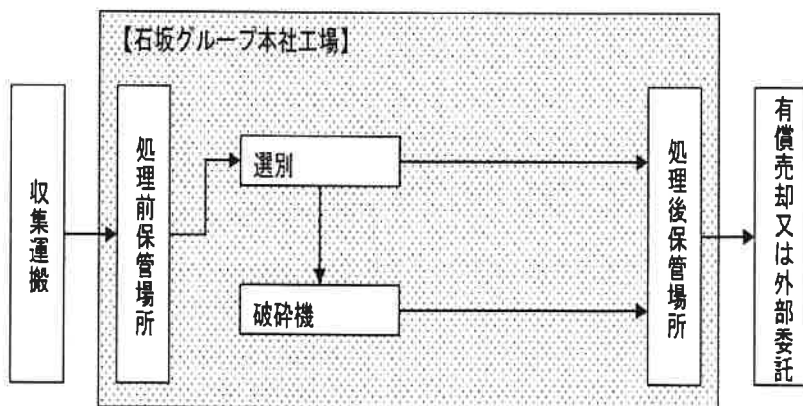
⑦ビン缶（ガラスくず・金属くず）



⑧がれき類



⑨蛍光灯（ガラスくず、金属くず、廃プラスチック類）



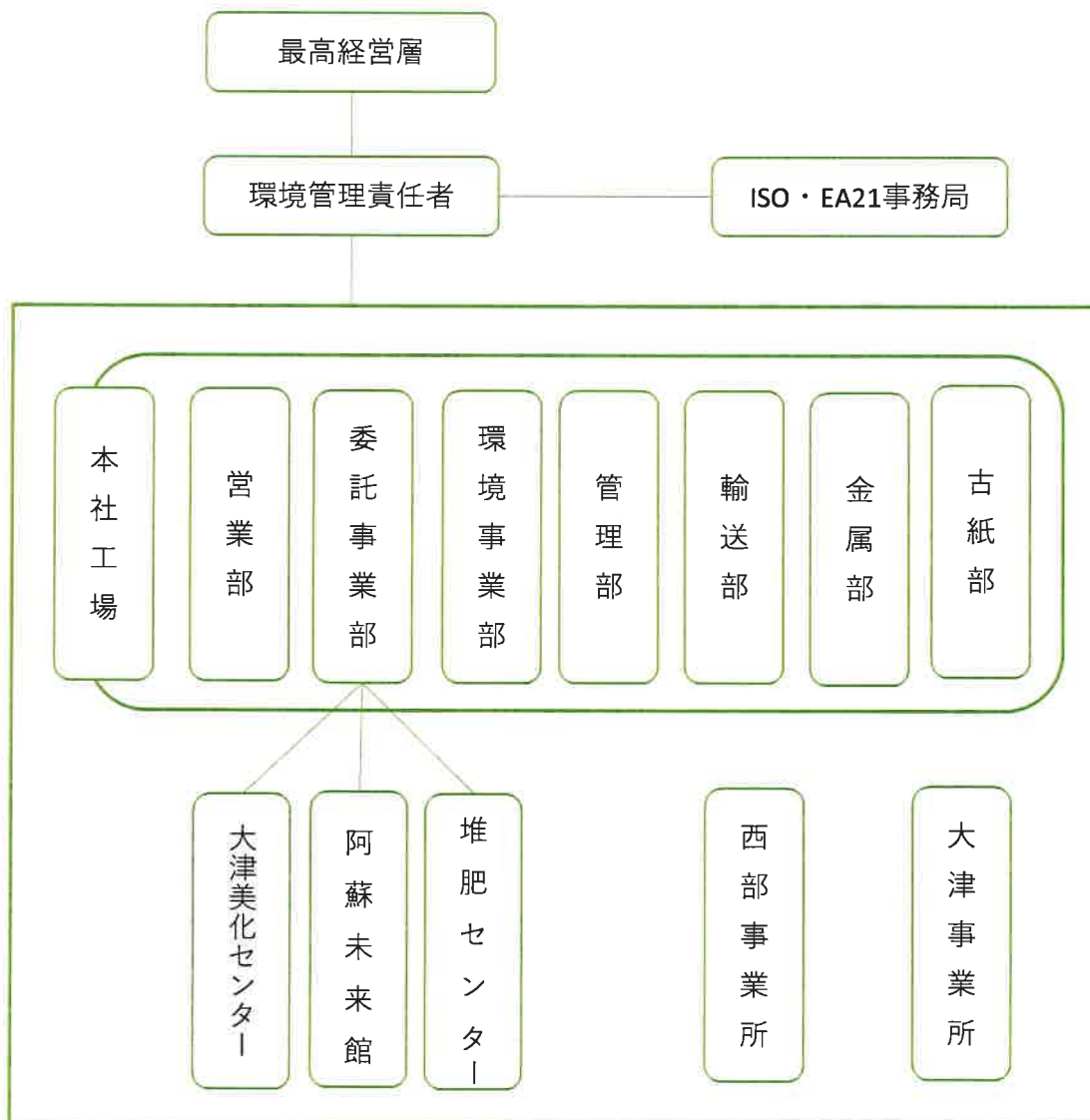
（情報公開ページ <http://www.ishizaka.gr.jp>）

3. 認証・登録対象範囲

- 認証・登録番号 0002032
- 認証・登録事業者 有価物回収協業組合 石坂グループ
- 事業活動 一般廃棄物・産業廃棄物・有価物の収集運搬業
一般廃棄物・産業廃棄物・有価物の中間処理業
有価物の回収・販売
指定管理施設の運営
(大津美化センター・阿蘇未来館・堆肥センター)
- 対象事業所 本社工場、西部事業所、大津事業所

4. EA21 組織図

当組合の環境経営システムガイドラインの組織図



5. 環境経営目標

中長期の環境経営目標は、2019年度実績を基準とし、下記のとおり設定しました。

項目		単位	基準	環境目標			
			2019年度	2020年	2021年	2022年	
工場の 二酸化炭素排出量	生産加工量 あたり	電気	kg-CO2/ t	12.16	12.14	12.14	12.14
		燃料 (軽油・灯油)		7.37	8.49	8.49	8.49
	稼働時間 あたり	燃料 (重油)	kg-CO2/ h	79.72	87.80	87.80	87.80
収集運搬の 二酸化炭素排出量	受取運賃 あたり		kg-CO2/円	0.00259	0.00306	0.00306	0.00306
水使用量	生産・加工量 あたり		m3/ t	0.99	0.91	0.91	0.91
廃棄物等排出量	リサイクル率		%	96.2	95%以上	95%以上	95%以上
バーチャル 工場見学	バーチャル 工場見学		人	1,572	1,572	1,572	1,572
化学物質の適正使用 適正管理				適正使用管理			
グリーン商品 (事務用品)	購買率		%	72.7	68.5	68.5	68.5
関連法規の遵守				関連法規遵守			
環境方針の 全従業員への周知 一般への公開				環境方針の全従業員への周知・一般への公開			
<input type="checkbox"/> 目標項目変更：工場見学・体験学習 → バーチャル工場見学 新型コロナウイルス感染拡大により工場見学・体験学習の開催が見送られた為 目標項目の変更を行いました。							

6. 環境経営計画

環境経営目標を達成するため、環境経営計画を下記の通り設定しました。

項目		2021年度	責任担当者	
工場の 二酸化炭素 排出量	生産・加工量 あたり	電気	・選別量・加工量の向上	金属部 小井出 聖
			・加工計画の見直し	
			・加工機械時間短縮及び切り替え運転の実施	
	生産・加工 量 あたり	燃料 (軽油・灯油)	・LEDへの切り替え	
			・力量教育の実施	
			・メンテナンスの強化	
			・稼働率のUP	
	稼働時間 あたり	燃料 (重油)	・アイドリングストップの強化	
			・電力との併用の検討	
収集運搬の 二酸化炭素 排出量	受取運賃あたり	・電力値の見える化の実施	大津事業所 村田 勇喜	
		・収集コースの見直し		
		・荷造り講習会の実施		
		・引取り車輛及び引取り方法の見直し		
		・配車の見直し		
		・力量教育の実施		
		・稼働率のUP		
		・省燃費運転講習会の実施		
・メンテナンス技術向上研修会の実施				
水使用量	生産・加工量あたり	・電力との併用の検討	管理部 長濱 雄一	
		・洗濯時の雨水利用の促進と使用時間の短縮		
		・漏水の早期発見		
廃棄物等 排出量	リサイクル率	・雨水タンク増設等の設備改善検討	営業部 島田 剣	
		・マテリアル原料化		
		・新規出荷先の開拓		
		・選別方法・収集方法の改善の強化		
		・RPF原料化の強化		
		・取引先社員向けの営業展開の強化		
バーチャル工場見学		・最終残さの削減	管理部 中島 葵	
		・婦人会・老人会・子供会へのアピール		
		・ホームページの更新		
化学物質の適正使用・適正管理		・送付票、封筒等でのアピール	環境事業部 西 聡史	
		・定期的なチェックを行う		
グリーン商品（事務用品）		・書類管理を徹底する	管理部 長濱 雄一	
		・購入リストに基づく購入を行う		
環境法規の 遵守		・省エネルギー基準適合製品を購入する	管理部 河野 友美	
		・定期的なチェックを行う		
環境方針の 周知と公開		・書類管理を徹底する	管理部 長濱 雄一	
		・全従業員に環境手帳を配布		
		・正面玄関に掲示		
		・HPへ掲載する		

7. グループ全体の物質収支

◆ 工場系

エネルギー投入量 (単位：MJ)

	電気	化石燃料	合計
本社工場	2,154,012	525,496	2,679,508
西部事業所	58,707	19,098	77,805
大津事業所	436,048	47,265	483,313
合計	2,648,767	591,859	3,240,626

水使用量 (単位：m³)

	水使用量
本社工場	33,643
西部事業所	344
大津事業所	1,355
合計	35,342



中間処理

一般廃棄物	19,468.0 t
産業廃棄物	16,891.2 t
有価物	121,614.6 t
合計	157,973.8 t ※1

再資源化等量

一般廃棄物	6,454 t
産業廃棄物	6,911 t
有価物	140,160 t ※2
合計	153,525 t ※1

単純焼却

最終処分

一般廃棄物	1,215 t
産業廃棄物	4,527 t
合計	5,742 t ※1

工場系CO₂

総排出量

2,139,399 kg-CO₂



CO₂排出量

(単位：kg-CO₂)

	電気	化石燃料	合計
本社工場	687,130	650,668	1,337,798
西部事業所	18,728	49,273	68,001
大津事業所	192,733	121,739	314,472
合計	898,591	821,680	1,720,271

※1 入出荷のタイムラグがあるため、中間処理=再資源化+単純焼却最終処分量にはなっていません。

※2 廃棄物から再資源化されたものも含みます。

CO₂の排出係数は、2019年度九州電力のCO₂の実排出係数0.319kg-CO₂/kwhを使用しています。

7. グループ全体の物質収支

◆ 輸送系

エネルギー投入量 (単位：MJ)

	化石燃料
本社工場	19,027,854
西部事業所	399,620
大津事業所	3,052,134
合計	22,479,608



一般廃棄物	21,143.6 t
産業廃棄物	11,453.6 t
有価物	43,544.8 t
合計	76,142.0 t

使用燃料

軽油	28.34 kℓ
ガソリン	562.80 kℓ
BPF	0.00 kℓ
合計	591.14 kℓ

燃費

パッカー車	4.15 km/ℓ
大型車	3.60 km/ℓ
その他	4.13 km/ℓ
合計	3.96 km/ℓ

輸送系CO₂

総排出量

1,518,194 kg-CO₂



CO₂排出量 (単位：kg-CO₂)

	化石燃料
本社工場	1,284,652
西部事業所	26,990
大津事業所	206,552
合計	1,518,194

CO₂の排出係数は、2019年度九州電力のCO₂の実排出係数0.319kg-CO₂/kwhを使用しています。

8. 環境経営目標と実績

項目		単位	2021年度		環境経営計画	判定
			環境目標	実績		
工場の 二酸化炭素排出量	生産加工量 あたり	電気	kg-CO2/ t	12.14	14.22	・選別量・加工量の向上 ○
					目標未達成	・加工計画の見直し ○
					・加工機械時間短縮及び切り替え運転の実施 ○	
	稼働時間 あたり	燃料 (軽油・灯油)	kg-CO2/ h	21.07	8.49	・LEDへの切り替え △
					目標達成	・力量教育の実施 ○
					・メンテナンスの強化 ○	
稼働時間 あたり	燃料 (重油)	kg-CO2/ h	21.07	18.95	・稼働率のUP ○	
				目標達成	・アイドリングストップの強化 ○	
収集運搬の 二酸化炭素排出量	受取運賃あたり	kg-CO2/円	0.00306	0.00237	・電力との併用の検討 ○	
					・電力値の見える化の実施 ○	
					・収集コースの見直し ○	
					・荷造り講習会の実施 ○	
					・引取り車輛及び引取り方法の見直し ○	
					・配車の見直し ○	
水使用量	生産・加工量あたり	m3/ t	0.91	1.14	・力量教育の実施 ○	
					・稼働率のUP ○	
					・省燃費運転講習会の実施 ○	
					・メンテナンス技術向上研修会の実施 ○	
					・洗車時の雨水利用の促進と使用時間の短縮 ○	
					・漏水の早期発見 △	
廃棄物等排出量	リサイクル率	%	95%以上	96.3%	・雨水タンク増設等の設備改善検討 ○	
					・マテリアル原料化 ○	
					・新規出荷先の開拓 ○	
					・選別方法・収集方法の改善の強化 ○	
					・RPF原料化の強化 ○	
					・取引先社員向けの営業展開の強化 ○	
パーチャル工場見学	人	1,572	3,877	・最終残さの削減 ○		
				目標達成	・婦人会・老人会・子供会へのアピール ○	
				・ホームページの更新 ○		
化学物質の適正使用適正管理			適正使用管理	・送付票、封筒等でのアピール ○		
				・定期的なチェックを行う ○		
グリーン商品 (事務用品)	購買率	%	68.5	68.5%	・書類管理を徹底する ○	
					目標達成	・購入リストに基づく購入を行う ○
関連法規の遵守			関連法規遵守	・省エネルギー基準適合製品を購入する ○		
				・定期的なチェックを行う ○		
環境方針の 全従業員への周知一般への公開			環境方針の全従業員への 周知・一般への公開	・書類管理を徹底する ○		
				・全従業員に環境手帳を配布 ○		
<input type="checkbox"/> 目標項目変更：工場見学・体験学習 → パーチャル工場見学 新型コロナウイルス感染拡大により工場見学・体験学習の開催が見送られた為 目標項目の変更を行いました。						

9. 環境関連法規等の遵守状況

熊本県SDGs登録事業者となりました。

□ SDGs達成に向けた経営方針と目指す姿

私たち石坂グループは、リサイクル事業及び廃棄物処理事業を通じ、業界のリーディングカンパニーとして地域・社会の環境保全への取組みをサポートし、環境に責任の持てる企業として有益な環境活動を追及いたします。



□ SDGs達成に関する重点的な取り組み

グリーン購入の推進

残業時間の削減

年齢、性別を問わない中途採用の実施

10. 環境関連法規等の遵守状況

ISO-EA21事務局及び部門長は、年1回、順法性の確認を行い、環境記録として保管しています。問題が発見された場合は、環境管理責任者の下、是正処置及び予防処置を実施しています。2022年度は、当社グループによる環境関連法規違反、環境に重大な影響を与える事故、訴訟はありませんでした。

11. 地域・社会貢献

- ・熊本震災、西日本豪雨、佐賀豪雨、人吉球磨豪雨の災害廃棄物の処理を行いました。社員の多数がそれらを経験しており、今後の準備を含め数多くの行政とレジリエンスをしながら協議を行っています。
- ・地域事業者として、県下一斉清掃を行い、社会貢献活動に取り組んでいます。
- ・環境フォーラムの実施
- ・社内で肉牛、乳牛の糞尿を堆肥化して、その堆肥は有機JASの認定を頂き、人参、ゴーヤ、板藍根などの農作物を社内還元しています。
- ・高校生の職場体験を、積極的に受け入れています。



工場見学
のご案内



バーチャル
工場見学



11. 環境責任者及び代表者による全体評価と見直しの結果

11.1 環境マネジメントシステムの現状

- ① 前回のEMSマネジメントレビューの結果は6月15日の環境会議において環境委員に対し報告し、次年度に向けての取り組みの強化と内容の変化にすぐ対応できる体制を作るよう指示しました。
- ② 環境マネジメントシステム（EMS）に関連する外部及び内部の課題は毎月一回開催の環境会議にて確認。（環境会議議事録を参照。）現在は「人材育成」「コンプライアンス遵守」「作業環境の改善」
- ③ 順守義務を含む、利害関係者のニーズ及び期待に関しては、毎月一回開催の環境会議にて確認。（環境会議議事録を参照。）
- ④ 著しい環境側面に関しては、著しい環境側面登録簿にて各部門より検出。（著しい環境側面登録簿を参照。）
- ⑤ リスク及び機会に関しては、④同様、リスク及び機会抽出検討書にて各部門より検出。（リスク及び機会抽出検討書を参照。）
- ⑥ 環境目標の達成程度に関しては、29項目中27項目で達成予定となり、未達項目においても社内の細かい業務フローの変更等による要因が考えられるもので、随時目標の変更改定を行っています。
- ⑦ 不適合及び是正処置に関しては、委託事業部の取漏件数は、数値自体のボリュームが小さく、1件に掛かる負担が大きい事と悪い結果が数回継続すると未達が確定してしまうことから走行距離及びペットボトル回収量へと目標の変更をおこなった。（別紙添付書類並びに不適合処理表参照）
- ⑧ 監視及び測定の結果に関しましては、6項目において現状未達、うち4項目については充分評価できる数値となっており、今後でも追求可能な数字ではないかと考えます。
- ⑨ 法令順守状況に関しては、毎月CIS等を活用し、関係法令に関してはチェックをおこなっています。なお、特定施設の管理についても各部門の特定施設を登録し、管理点検を行うとともに騒音・振動測定等も行っています。（法規制順守定期評価表及び法規制登録簿を参照。）
- ⑩ 内部監査 [5/24～5/25] の結果、不適合3件、改善事項25件、推奨事項4件の32件で終了しました。（内部監査報告書等を参照。）
- ⑪ 経営資源の妥当性に関しましては、人員の確保も少しずつ進み、就業体制は整いつつあります。またプラント・設備についても遅れ気味ではありましたが計画的に実施され妥当性が認識できます。
- ⑫ 苦情を含む、利害関係者からの関連するコミュニケーションに関しては、お客様からのクレームが発生しています。走行速度が遅すぎることや、来客時の対応方法についてです。社内周知を迅速に行い、対応方法についても検討し、全社として対応方法の統一を図りました。その他では排出先からの処分確認、引き取り時のお褒めの言葉など対応に対して有益なご意見を多くいただき、外部とのコミュニケーションをとる事ができました。（外部対応表を参照。）
- ⑬ 継続的改善の機会に関しては、②及び③同様、毎月一回開催の環境会議にて課題を確認し、その都度検討をおこなっています。（環境会議議事録を参照。）

2022年6月5日 環境管理責任者 辻 崎 英 樹

11.1 全体の評価

総括としては、全体的にシステムの運用状況は良好と考えます、経営的にも資源相場の上昇と合わせて取扱量も大幅にアップし、地域的には、大手半導体の誘致による関連業務の拡大が期待されています。特に重視するコンプライアンスについても社員教育の中で重点的に教育し、各部門の取り組みの中でも安全と合わせて特に追及すべき項目として認知されています。

その中で、内部監査も含め全体的な活動の在り方も、安定してきているように思われます。

11.2 見直し

目的・目標の変更：大幅に未達成となった目的・目標の変更を行う。

その他の要素：アフターコロナの中で業務・教育の実施内容を見直し、マネジメントシステムの運用がスムーズに出来るように改善をしてほしい。

2022年6月15日 代表理事 石 坂 孝 光